

3年ぶりの御嶽山単独登山

天候を選び、荒涼と紅葉の御嶽山を訪れました。

期間 2017年9月29日～30日 記:平野功



毎日のスケジュールを自由に選べる特権で、雨の心配が無い天気予報を確認し、3年ぶりに1泊2日で御嶽山を訪れました。

退職後は、里山のように毎年登っていた山でしたが、2014年登山予定の1週間前の9月27日に噴火災害があり、以来登山は断念していました。



3年ぶりの登山のきっかけは、9月27日のテレビの追悼番組です。

死者・行方不明者63人を出した噴火災害後、頂上付近は未だ入山規制のままですが、噴火予報の警報は解除され、登山者も徐々に増加傾向にあるとのことでした。

急遽、御嶽山の現状を見たい欲求にかられ、今回の登山計画となりました。



6合目中の湯登山口

過去の登山は、いつも「田の原」登山口から頂上～三の池の往復の日帰りコースでしたが、現在は登山規制で三の池方向のルートが遮断のため、今回は6合目「中の湯」登山口を起点としました。

9月28日登山口駐車場の車内で前泊し、29日午前6時登山口を出発、8合目女人堂～頂上直下の入山規制ライン～二の池～三の池経由で、女人堂へ抜け、日帰りで下山する計画でした。



8合目女人堂から御嶽山遠望



9合目石室山荘

いつもの登山のように、写真とビデオ撮影をしながら順調に歩を進め、8合目女人堂で休憩後は、急登のガレ場を登り切り、9合目石室山荘を越え、約5時間かけて3067mの頂上まであと約25分の所に設けられた「入山規制ライン」に到着しました



立入禁止看板

さらに、入山禁止看板から規制ラインに沿って約 20 分歩くと、火山灰で汚れた二の池に到着。澄み切った雪解け水を蓄えた清涼な二の池は過去のものとなり、荒涼とした風景に噴火の恐ろしさを実感しました。ここから見上げる御嶽山頂上や一の池一帯も、火山灰の堆積で荒涼としており、登山道の整備もままならず、未だ入山規制もやむを得ない状態です。



火山灰で埋もれた二の池



二の池から御嶽山を見上げる

午前 11 時半、二の池から池巡りの絶景ポイント「三の池」を目指して出発し、このままのペースだと、余裕で明るい内に下山できると考えていました。

しかし、出発して間もなくいやな予感と共にハプニング発生。三の池に向かう下り坂の途中で、両脚に「こむら返り（つり）」が突然発生。激痛をこらえ、ひたすら沈静化する以外に術が無く、更に久しぶりの高山登山で、予防薬や緩和用の塩分錠剤などの持参を忘れ、準備の甘さに「とほほ！」なありさまでした。



三の池に向かう下り坂



振り返ると御嶽山

それでも、しばらくすると激痛が治まり、なんとかペースを落としてこのまま予定のルートで下山しようと企みましたが、更に甘かった。

「こむら返り」が容赦なく両脚に襲いかかり、沈静化したら歩を進めることの繰り返しで、牛歩のごとくで距離が延びず、このまま日帰りを強行すると遭難の危険を感じ、急遽一番近い山小屋「五の池小屋」に緊急宿泊することにしました。



三の池避難小屋から三の池を見下ろす

三の池を見下ろす緊急避難小屋から先のコースは初めてでしたが、険しい下り坂に加え岩だらけのコースで、脚に爆弾をかかえた身には青息吐息で、通常約30分のコースを1時間半かけ、午後2時半頃ようやく「五の池小屋」に到着できました。



五の池小屋へ向かう岩場



五の池小屋に到着

金曜日のせいか、山小屋は繁忙期のように寝返りできないようなことはなく、一人ずつゆっくりと大の字で眠れる状態でした。

一泊二食付き9500円でチェックイン後、脚のつりに効く薬があるか相談したら、吐き気がする位の超濃い目の塩水をマグカップいっぱい作ってくれ、飲み干すと一発で直ってしまった。やっぱり塩分不足か。私には塩飴程度ではダメのようでした。



山小屋の前に五の池



夕日はあいにく雲の中

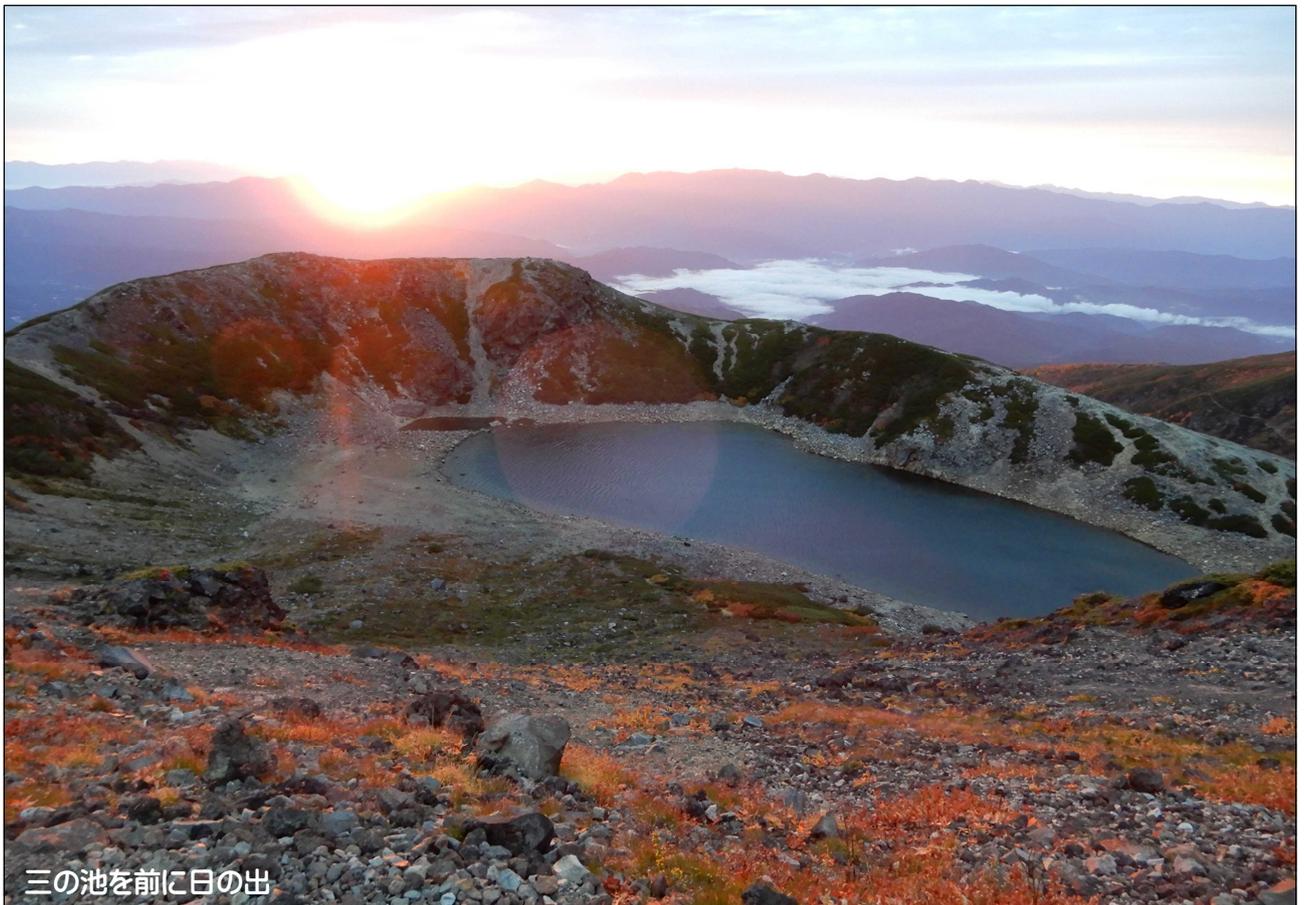


夕食風景



夕食(味噌汁も付きます)

9月30日、朝食前の午前5時40分頃、厚い氷ができる寒さの中、日の出を見に行きました。



三の池を前に日の出



四の池

午前6時開始の朝食を済ませ、7時に「五の池小屋」を出発。

四の池、三の池のお鉢巡りの後、8合目の女人堂へ抜ける初めてのルートを通りながら紅葉を楽しみ、正午頃「中の湯登山口」に到着することを目指しました。

三の池のお鉢巡りの途中、三の池の反対側には水たまりのない「四の池」が見下ろせ、更に歩いて目を「三の池」に転じると、岩に張り付いた紅葉の後に、風で湖面が揺れていた。



お鉢から三の池の眺め



8合目女人堂への分岐点

この分岐点から、8合目女人堂へ抜けるルートを通り、最盛期の紅葉を楽しみます。

途中、危険箇所がいくつかあり、急がず慎重に下山します。



急勾配の下り坂



ナナカマドの紅葉



8合目女人堂が見えてきた。



8合目女人堂まで約10分

8合目女人堂を後にして、「中の湯」登山口を目指す。



午前 11 時 50 分、心配した脚のつりも無く、無事「中の湯」登山口に到着。



下山後、近くの木曾温泉旅館の湯に浸かって筋肉をほぐし、仮眠をした後、安全運転で無事、春日井の自宅に午後4時頃到着しました。